

創立50周年記念式典を終えて

大分大学教育学部附属特別支援学校

校長 友成 洋

令和5年11月29日水曜日。大分大学教育学部附属特別支援学校の創立50周年記念式典が、北野正剛大分大学学長、岡本天津男大分県教育委員会教育長をはじめ、大勢のご来賓の方々のご臨席の中、開催されました。式典の後半には、「新しい高等部の制服」「校旗・代校旗」の披露に加え、記念品である「記念誌」「作業製品」等の披露、本校のマスコットキャラクターである「ポプラちゃん」の誕生秘話等、児童生徒と教職員とが、一緒に企画・準備して作り上げた式典は、会場全体に一体感が見られ、子どもたちも楽しく過ごせたのではないかと感じています。ご協力いただいた皆様方に、この場を借りて、御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、本校は、昭和48年に「大分大学教育学部附属養護学校」として開校し、昭和49年には高等部が設置され、小・中・高一貫教育の基礎が築かれました。その後、幾度かの校名変更を経て、現在に至っており、令和5年3月末の時点で、約370名をこえる生徒が本校を卒業し社会に巣立っていきました。

この間、日々の実践を含めた在校児童生徒の教育を進めるとともに、附属学校園の使命である「大学への研究協力や教育実習指導といった人材育成」「特別支援教育についての理論的、実証的研究の推進や地域への支援の充実」にも積極的に取り組んでまいりました。

特に、研究面では、ここ数年、学習指導要領の改訂に伴い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」の三つの育成する資質能力をキーワードに「授業構想の在り方」など、指導方法の研究を進め、研究成果をホームページ等で積極的に地域に情報発信するとともに、本校の個別の指導計画や日々の授業の充実につなげてまいりました。

さらに、幼稚園、小学校等への巡回相談や特別支援教育実地研修等、大分県教育委員会との連携のもと、特別支援教育のセンター的役割を担う等、地域とのつながりをさらに深めております。

そして、令和5年度、本校は、大きな節目となる創立50周年を迎えました。

時代とともに、「特別支援教育の在り方」や「附属特別支援学校の在り方」も変わってきており、本校も、さらなる学校改革が求められています。一方で、附属特別支援学校は、先生と児童生徒がともに学び、ともに成長する場であることに変わりはありません。

私は、20年前、本校に教諭として勤務しました。その間、たくさんの先生や保護者と出会い、そして、何よりも、子どもたちへの指導・支援を通して、たくさんのことを児童生徒から学びました。

今後も、時代の流れに対応しつつも、附属学校の3つの使命に基づいて、児童生徒と教職員が、『ともに学び、ともに成長し続ける』そのような学校であり続けたいと、決意を新たにしているところです。

児童生徒一人一人が、将来への夢や希望をもち、夢の実現に向け、日々の学習に、主体的に、取り組むことができるように、指導の充実に努めるとともに、子どもたちが安全に、そして安心して通えるように今後も取り組んで参ります。

結びになりますが、本校創立以来、本校の教育活動にご支援ご協力を賜りました関係の皆様方には、今後とも本校教育の推進・充実に御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。